

第4回永平寺町学校のあり方検討委員会 要点録

(2021年7月19日作成)

1	会議の名称	第4回永平寺町学校のあり方検討委員会		
2	会議の開催日時	2021年6月25日(金) 午後7時～8時30分		
3	会議の開催場所	永平寺開発センター	公開の可否	可・一部不可・不可
4	事務局(担当課)	学校教育課	傍聴者数	4名
5	非公開の理由 (非公開(会議の一部非公開を含む。)の場合)	/		
6	協議事項	1 アンケート結果の報告について 2 委員長、副委員長の所見 3 質疑応答及び意見交換		
7	配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 次第 ● 資料1 永平寺町学校のあり方検討のためのアンケート調査 結果概要 ● 資料2 小学校の統合に関する地域の差 ● 資料3 中学校の統合に関する地域の差 ● 資料4 永平寺町学校のあり方検討のためのアンケート調査 記述概要 ● 資料5 学校のあり方検討スケジュール(R3.4 修正版) ● 資料 永平寺町のアンケート考察に係る委員長整理 ● 資料 アンケート調査結果がしめす永平寺町のこれからの学校・学び 		
8	審議等の内容	別紙のとおり		

第4回永平寺町学校のあり方検討委員会 要点録

(2021年6月25日(金)開催)

開会

事務局

定刻になりましたので、第4回永平寺町学校のあり方検討委員会を開催します。
会議に先立ちまして、町民指標のご唱和をお願いいたします。

(町民指標唱和)

事務局

それでは、委員長よりお願いいたします。

委員長

(あいさつ)

事務局

協議事項に入る前に、交代等により本年度から委員として参加される方々を紹介します。

(委員紹介)

本日の委員会につきましては、24名の委員のうち21名の委員が出席しており、本委員会が成立していることを報告します。

では、この後の議事進行は、委員長よりお願いいたします。

委員長

それでは議題に入らせていただきます。

協議事項1 アンケート結果の報告について

委員長

前回、たくさんのご意見をいただき、調査票の修正案を作成し、調査を実施しました。
まずはその結果について、事務局より説明をお願いしたいと思います。

事務局

(資料1～5を説明)

協議事項2 委員長、副委員長の所見

委員長

ありがとうございました。

それでは、アンケート調査の結果について、私と副委員長の所見を述べさせていただきます。

今回のアンケート調査は回収率も高く、対象も広く、大変質の高いものとなっています。町民の意見を知るうえで、非常に貴重なデータです。事務局の説明を念頭に、答申に盛り込む内容を検討する必要があります。

高校生が自分の小中学校の生活を振り返って、良かったこと、良くなかったことを聴くことができたことも成果の1つです。答申では大人の意見だけでなく、これから主権者になる若者の声もしっかりと反映したいと思います。

小中学校の保護者から、様々な課題を挙げていただきました。当事者として児童・生徒数についてある程度の規模が必要だという具体的な理由をいただき、説得力があると感じました。小さい学校も必要だという意見もいただき、学校教育に満足しているということがうかがえました。

今後小学校に通う幼稚園児の保護者からは、より敏感に適正な人数の希望をいただくことができたと考えています。

地域住民からは地域や教育への誇り、関心をうかがえました。地区から学校がなくなるのは人口減少につながり、現状維持を望む声もありました。しかし、人口減少については学校だけで考えるのではなく、町政全般で考えていくべきだと思います。今回の答申では、あくまで子どもたちの発達や成長のために望ましい環境をどうしていくかということについて考えていきたいと思っています。

永平寺、松岡、上志比の合併をして15年になりますが、やや地域が閉じているという課題があると感じました。町全体で相互交流や協働のカリキュラムづくりなどに取り組んでいく必要があるかと思っています。

教員調査の回収率は100%となっており、プロフェッショナルとしての意識の高さを感じました。1学級10名以下が常態化すると、より良い教育環境とは言えないという意見をいただきました。小学校、中学校に応じた適正な規模についての意見をいただきましたので、しっかりと検討したいと思っています。

統廃合については地域や立場によって考え方が異なるため、慎重に考える必要があります。中学校の統廃合については、生徒の発達の観点から適正化の必要性を感じています。

高校生からは、町全体での学びや相互交流の必要性に関する意見をいただきました。また、宿題に苦勞したことから、知識を詰め込むだけの教育ではよくないという意見もありました。今後の教育環境を考えるうえで重要な意見だと思います。

小中学生は前向きで積極的です。副委員長からの所見にも出てきますが、やりたいことについて強い意欲がみられました。福井県は教育に力を入れています、永平寺町は突出していると考えられます。

教員からはふるさと教育を町全体でやっていく必要性について意見をいただきました。一方で、教員だけで実施することは負担が大きく、教員の働き方改革にも配慮しながら、地域全体の協働でカリキュラムをつくる必要があります。協働によるカリキュラムの作成にあたっては、ICTなどの技術が役に立ちます。

コロナ禍では、ICTの技術が注目されています。ICTに対する子どもたちの意欲が強く、教員も必要性を理解されていることから、きっと上手くコロナ禍を乗り越えるだろうと信じています。

私からは以上です。

副委員長

私からは、これからの永平寺町の学校と学びについて共有させていただきます。

まず、子どもたちのやってみたいという項目はそれぞれ重みが違います。項目によって、やってみたいという割合が異なっています。また、「ふつう」という回答も「やってみてもいい」という前向きな意見として捉えられます。そう考えると、81.4%もの小中学生が様々な取組を「やってみ

てみたい」と考えており、すごいことだと思います。

取組によって、既に実施していることだからやってみたいという回答が多くなっているもの、全国的にこれから推進していくため関心が高くなっているもの、どこでもやっている取組ではないがぜひやってみたいものというように、様々な傾向が出ています。この結果をみると、子どもたちの新しい学びに挑戦したいという想いが秘められていることがうかがえます。

一方で、保護者は今のままで十分と感じている人が多く、子どもたちとギャップがあります。保護者が子どもの背中を押してもいいと思います。また、教員たちもできていないという回答が多くなっています。また、ICTは今のままでという回答が多く、子どもたちとギャップがあります。

今回の調査では、子どもたちの声を聴くことができたという大きな成果があります。この成果を活かし、子どもと保護者と教員が協働で取組を推進していきたいと思います。

調査結果を踏まえ、2点紹介したい事例があります。

北欧のエストニアがIT推進国として世界中で注目されています。エストニアは人口130万人という小さな国ですが、ITの取組が充実しており、選挙がオンラインで実施されていたり、結婚と離婚の届け出を除くほとんどの行政手続がオンライン化されているほか、5歳からプログラミング教育が実施されている国です。

国際学力調査では、エストニアは読解力で1位、数学で3位、科学で1位と好成績を修めています。そして、学校におけるインターネットの整備状況はOECDでも上位に位置しています。一方、エストニアの教員のITスキルは平均以下となっています。教員にスキルはなく、学びながら教育を実施しています。

エストニアには、IT Studentという係があります。IT Studentを担当する生徒が、デジタルが苦手な教員や生徒のサポートをしており、生徒と教員が一緒になってデジタル化を進めています。このエストニアの事例からは、子どもと一緒にデジタル化を進めるという新しい方向性が示されています。

2つ目の事例は、他校との連携についてです。福井県美浜町では、東小学校、中央小学校、西小学校が連携し、ふるさと美浜元気プロジェクトを実施しています。このプロジェクトでは、3つの小学校が一緒に総合学習を実施し、一緒に調査をしたり、Zoomで進捗報告をしたりするという取組が進められています。学校と学校が連携して町の課題を発見・学習し、町に提案をするということまで実施しています。実際にプロジェクトを通じて、子どもたちの遊び場が少ないという課題を発見し、美浜町に提案したところ、公民館の隣に公園が整備されました。

学校同士のコラボレーションの事例は他にもあります。永平寺町でゼロからつくるのではなく、事例から学んでカリキュラムをつくることができると思います。

協議事項3 質疑応答および意見交換

委員長

ぜひ委員の皆様と意見を共有したいと思います。どんなことでも結構です。いかがでしょうか。

委員

アンケート調査結果をみたところ、小中学校を中心に様々な視点から意見や要望が出ていると感じました。私も小学校と中学校に関わってきましたが、出ている意見は間違いのないと思います。

子どもたちの声を大切に、真摯に検討したいと思います。

委員（

アンケート調査結果について、非常に細かく調査されていると感じました。様々な角度からみた結果、地域差があり、地域の中にも色々な想いがあるということがうかがえました。

その中でも、高校生の想いを強く感じました。高校生になると小学校や中学校から離れてしまいますが、一人ひとりが小学校や中学校で感じたことを発展させた考えを持っていると感じました。

委員

人口減少は学校だけでなく、他の町の問題との関連の中で考えるべきだということに同感です。また、学校の相互交流によるカリキュラムづくりの必要性について、まさにその通りだと思います。

委員

これまで人口減少だけをみていたと感じました。率直な意見を聴き、子どもたちにふさわしい教育環境づくりを考えたいと思います。

議会ではジュニアリーダーと交流する機会がありました。その時にも他校との交流を求める声があり、アンケート調査結果と共通していました。

委員

アンケート調査票をつくることから参加していましたが、言い回しや細かい表現に気を付けたことでとても良い結果が出たと感じています。答申の伝え方も注意して、より良いものをつくり、より良い教育環境の実現につなげたいと思います。

委員

私は吉野小学校区の者です。小さい学校にも良いところがあり、それを伸ばしていきたいという吉野小学校区の想いが結果にも強く表れていたと思います。

吉野小学校も含め、町全体でより良い教育環境をつくりたいと思います。

委員

私の子どもが来年から中学生になりますが、既に部活の人数の取り合いになっており、それで進学先を考えるのはもったいないと感じています。

また、地域だけでなく、家庭の中でも世代によって学校や進学先に対する考え方が違うとも感じています。

委員

志比北小学校区の者ですが、周りとお話をすると学校を大事だと考える人が多いという印象を持っていました。アンケート調査結果では統合を望んでいる人が多く、統合という視点も視野に入れる必要があると感じました。

委員

アンケート調査結果を見て、子どもたちのやってみたいことに驚きました。子どもたちがこんな

に積極的だとは思っていませんでした。私自身親として子どもにそんなに色々な活動や取組をしなくてもいいと思ってたと反省しました。私の子どもは今年中学1年生になったのですが、新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止になり、学校が楽しくなかったと聞いています。今回のアンケート調査結果をもとに、子どもたちに寄り添っていく必要があると思います。

委員

私は志比小学校区の者ですが、学校の存続を希望する人が少ないことに驚きました。子どもの人数が多い小学校区では、子どもの人数が多いから学校がなくなることはないだろうという考えがあるかもしれません。小さい学校の意見を大事にしてほしいと思います。

委員

子どもたちはこれからやってみたいこと、普段学べないことを熱心に取り組みたいと考えています。小規模の学校という体制を大事にしながら、新しいことに挑戦できるようになってほしいです。

委員

大きい小学校や中学校は統合に前向きで、小さい小学校や離れた小学校は近くに学校を残してほしいと考えていると思いました。

答申ではどこまで具体的な内容を盛り込めるのでしょうか。

委員長

どこまで盛り込むかは、今後、この委員会で皆さんと協議をして決めていきたいと思います。今の良い環境をもっと良くしたいと思っていますので、その想いを答申の中にしっかり書いていきたいと思います。

実際の教育環境の整備については、この答申を受けて、教育委員会、町の予算や施策など様々な要因が関わってきますので、しっかりと見守る必要があると思います。

答申については、次回の委員会で骨子について話ができればと思います。

委員

子どもと大人の価値観の違いが大きく出ていると思います。親子で共有することが改めて必要だと感じました。

委員

子どもたちが新しいことに挑戦したいという強い想いが出ていました。子どもは好奇心の塊ですので、しっかりと寄り添いながら子どもたちの想いに応えていく必要があります。

学校の統合については、松岡や永平寺など大きいところは合併を考えており、吉野では学校を地域に残してほしいという想いが結果にも出ていたと感じています。

坂井市では、10年続廃合の論議をせず、学校と地域の関わりを増やしていくとなっており、永平寺でもそうすべきではないかと思います。

また、総合学習自体は批判があったものの、副委員長が挙げた美浜町の事例が非常に重要だと思いました。ぜひふるさとに帰ってくるような学習につなげることができれば良いと思います。

副委員長

美浜町の事例の背景には、ライフスタイルの変化や地方創生の流れもあります。総合学習を通じて、子どもと教員、学校、地域をつないでいくことができると良いと思います。

委員

御陵では、町社協と小学4年生が御陵きらきら探検隊を実施し、町にどんな幸せがあるのか探すという活動をしています。子どもたちが福祉に関心がないと思っていたら、活動を通じて様々な意見が出ます。

私自身、子どもたちはより良い過ごし方を求めていると肌で感じています。このことも答申で取り上げてほしいです。

委員

アンケート調査結果で、自然学習等を支援してほしい教員と支援ができる地域住民のギャップが指摘されていました。私たちが地域の現状をしっかりとらえ、学校と地域をつなぐコーディネートができるようになれると良いと思いました。そのような仕組みづくりについて検討委員会ですっきりと考え、方向性を示したいと思います。

旧町村のエリアを越えたふるさと教育について、まだ旧町村という問題が残っているのかと思いました。町全体でやっていくという方向性を具体化し、答申で示したいと思います。

委員

子どもたちにプログラミング教育をしています。子どもたちの興味が強く、目つきが違います。

住民は自分たちの地区に誇りやプライドをもっています。合併して15年になりますが、地域も教育も地区を越えてつながっていないと感じます。自分たちの地区が良ければそれでいいという感覚を変えていきたいです。

委員

幼稚園、小学校、中学校はそれぞれ教え方やあり方が異なります。幼稚園は地域と密着する必要があります。小学校では地元で定着した教育が必要です。中学校ではより自立していく教育が必要です。学校のあり方は教育の方向性によって変わるため、しっかりと検討したいと思います。

永平寺中学校では礼の教育が充実しています。地元愛に満ちた教育をしていくことができると良いと思います。

委員

統廃合の前に、子どもたちがやりたいことを学校ごとに実施する方法、学校の枠をこえて実施する方法について考えていくべきだと思います。

子どもの人数が少なくてスポーツができなくても、学校同士が連携することで実施できるというような提案をしたいです。

委員

地域によって子どもの成長に差があると感じています。子どもの数が少ないところでは、年長になっても先生から離れられない子どもがみられます。

子どもは将来を担う存在であり、子どもたちのことを考えて、よりよい教育をしていく必要があります。

アンケート調査結果を教員にも示す必要があると思います。

その他

委員長

最後に、その他として事務局からお願いします。

事務局

次回の委員会は8月に開催予定です。委員長、副委員長と答申の骨格を作成し、お示しします。次回の委員会でいただいた意見をもとに6～7回目の委員会で答申案を練っていき、12月に答申を出す予定です。

このようなスケジュールで進めてよろしいでしょうか。

(賛成の声)

委員長

次回の委員会には、答申に記載する内容をまとめた骨格をお示ししたいと思います。検討過程や記述回答についても記載を考えています。

記述回答について、事務局から補足をお願いします。

事務局

記述回答の一覧を閲覧したい方は、6月28日から7月9日まで役場松岡本庁の学校教育課にお越しいただければと思います。

委員

本日委員長と副委員長が説明された資料をいただくことはできますか。

委員長

データでお渡しすることもできます。

委員

第1回委員会でワークショップを開催しましたが、その結果は答申に反映されるのでしょうか。

委員長

できるだけ答申に記載したいと思います。ワークショップで話し合った内容は重要だと考えていますので、何らかの形で答申に盛り込みたいです。場合によっては、資料として差し込むことも考えます。

他はよろしいでしょうか。

(質疑等の声なし)

委員長

これにて、本日の委員会を終了します。

本日は貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

<閉会>